

ガス除去効果試験

1 依頼者

株式会社 カタライズ

2 検体

ヒカリアクターG2

なお、検体はポリエステル布に塗布した状態で搬入された。

3 試験概要

検体についてホルムアルデヒドのガス除去効果をガス検知管により試験した。

4 試験結果

試験結果を表-1及び図-1に示した。

表-1 ホルムアルデヒドの試験結果

(単位：ppm)

試料区分	経過時間 (h)	
	1	4
検体 (明条件)	12	<1
検体 (暗条件)	20	20
空試験	20	20

初期ガス濃度：約20 ppm

<1：検出限界(1 ppm)未満

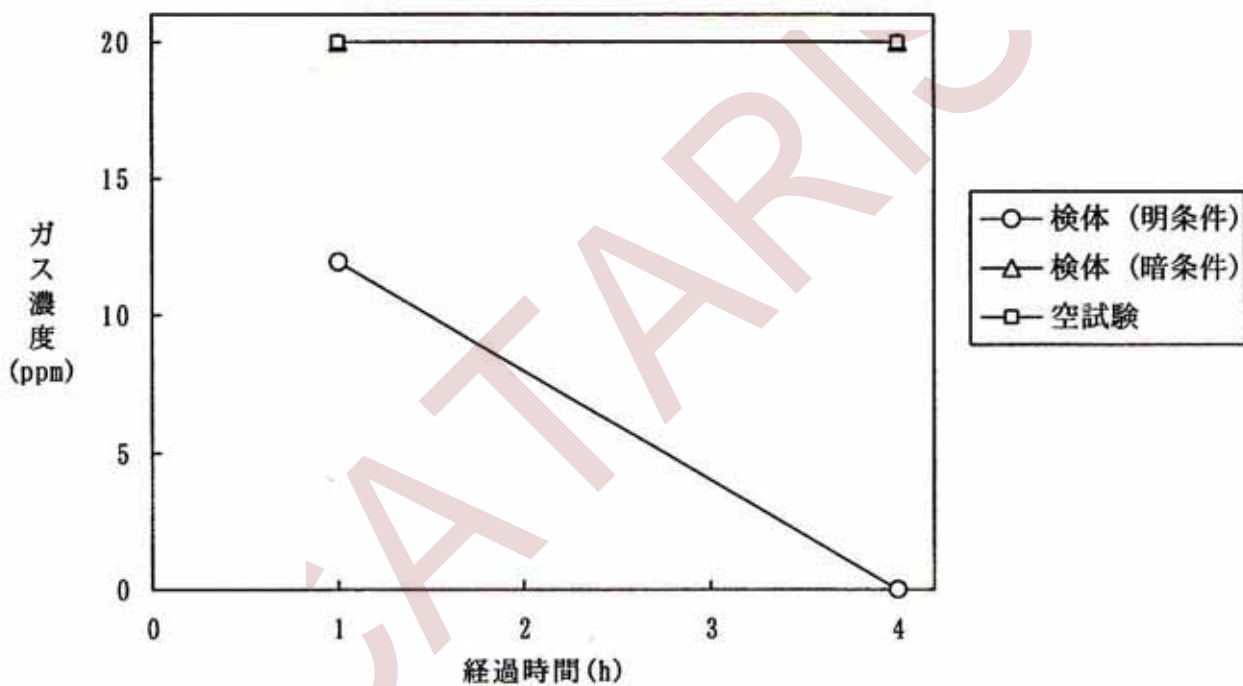


図-1 ホルムアルデヒドの試験結果

5 試験方法

1) 試薬及び器具

におい袋 (25 cm×40 cm) [有限会社 ミヤコビニル加工所]

ホルムアルデヒド：ホルムアルデヒド (36 %，特級) [関東化学株式会社] から発生させた
ガスを用いた。

ガス検知管 [株式会社 ガステック]

紫外線ランプ：FL40S・BLB [東芝ライテック株式会社]

2) 操作

あらかじめ3時間以上紫外線を照射 (約1.0 mW/cm²) した検体2個をそれぞれにおい袋に入れ、ヒートシールを施した後、空気3 Lを封入し、設定したガス濃度となるように試験対象ガスを添加した。

1個を明条件試料として室温下において検体の中心部の紫外線強度が約1.0 mW/cm²となるように照射し、もう1個は暗条件試料として遮光箱に入れて静置した。経過時間ごとに袋内のガス濃度をガス検知管を用いて測定した。また、検体を入れずに同様な操作をしたものを空試験とした。

試験条件を表-2に示した。

表-2 試験条件

検体使用量	明条件：5 cm×5 cm 暗条件：5 cm×5 cm
試験対象ガス (初期ガス濃度)	ホルムアルデヒド (約20 ppm)
温度条件	室温
測定時間	1及び4時間

以 上